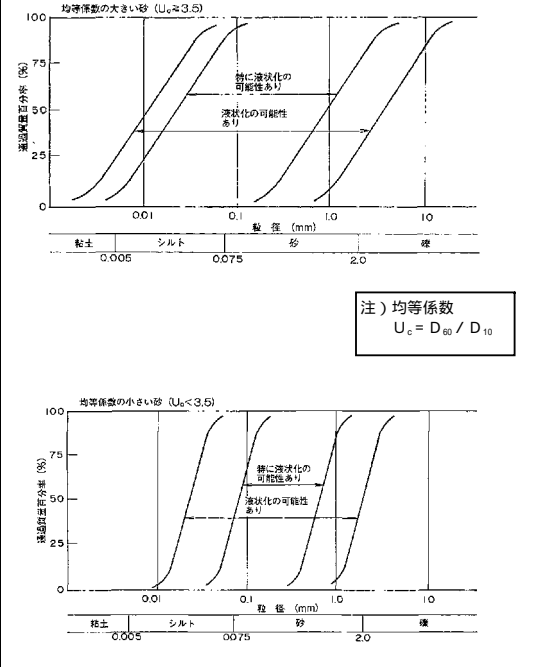
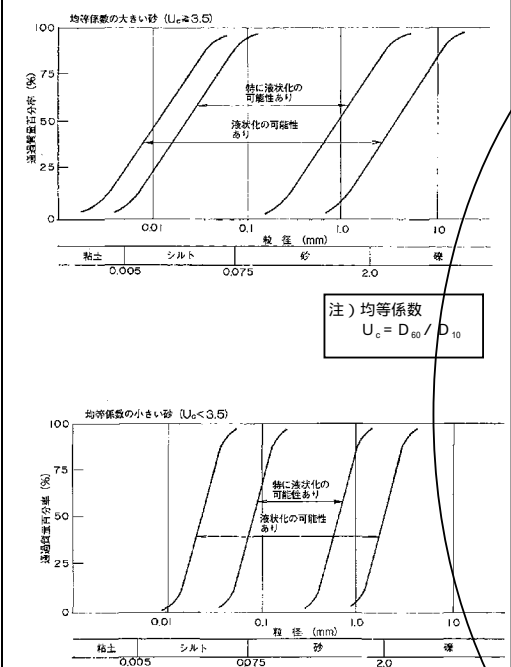


下水道の地震対策マニュアル(2006年版) 正誤表

| 頁 | 章 | 行 | 誤 | 正 |
|----|---|-----------------|--|---|
| 38 | 2 | 図2.1.2 |  <p>図2.1.2 液状化しやすい粒度分布⁶⁾</p> |  <p>図2.1.2 液状化の可能性のある範囲⁶⁾</p> <p>(参考)⁶⁾ 図2.1.2は、均等係数の大小に応じて使い分ける。均等係数の大小は$U_c = D_{60} / D_{10} = 3.5$が目安となる。 ここに、$U_c$：均等係数、$D_{60}$：60%径、$D_{10}$：有効径(10%径)である。 粒径加積曲線が「液状化の可能性あり」の範囲以外に含まれる土は液状化しないと判定する。 粒径加積曲線が「液状化の可能性あり」の範囲にまたがった場合など分類が困難である場合には、粘土分側については繰返し三軸試験による予測・判定法を用いる等の適切な対応が必要である。礫分側については、透水係数が3cm/s以上であることを確認した場合に液状化しないと判定することができる。ただし、この場合、対象土層の上に粘土やシルトのような透水性の悪い土層がある場合には、「液状化の可能性あり」の範囲の土として扱う。また、3cm/sという大きな透水係数を求めるための透水試験は特殊な方法となる。透水係数の測定が困難な場合には粒径から間接的に推定する方法があるが、適用に当たっては対象土が細粒分を含むか等の土質性状に留意する必要がある。</p> |
| 49 | 2 | 2.2.2 解説上から11行目 | 「指針 第6章 6.3.2 耐震診断の手法と留意点」で | 「指針 第6章 6.2.3 耐震診断の手法と留意点」で |
| 50 | 2 | (2)上4から5行目 | 必要である(「指針 第6章 6.1.3 情報の収集」参照)。 | 必要である。 |